

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、魚類に対して有害な**コクロディニウム・ポリクリコイデス**が**最大19細胞/mL**、シャットネラ属が最大1細胞/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最大2細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が最大1細胞/mL確認されました。

柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水では、魚類に対して有害なコクロディニウム・ポリクリコイデスが藻津で0.10細胞/mL、ヒロウラで0.14細胞/mL、シャットネラ属が青瀬山で0.01細胞/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が藻津で0.06細胞/mL、大島中央で0.02細胞/mL、麻痺性貝毒の原因種とされるギムノディニウム・カテナータムが藻津で0.04細胞/mL、大島中央で0.10細胞/mL、栄喜奥で0.16細胞/mL、下痢性貝毒の原因種とされるディノフィシス属が藻津で0.03細胞/mL、大島中央で0.04細胞/mL、青瀬山で0.05細胞/mL確認されました。

コクロディニウム・ポリクリコイデスは10cells/mL（注意基準）を上回っています。今後、本種はさらに増殖する可能性があり、漁業被害の発生が懸念される100cells/mL（警戒基準）に達する恐れがありますので、十分注意してください。また、アレキサンドリウム属、ギムノディニウム・カテナータム及びディノフィシス属は主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	シャットネラ 属	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス 属
	(m)	(℃)		(mg/L)				
A 藻津 (-/36.2m) 【09:12】	0	25.2	32.2	7.7	1	0	0	0
	★ 2	25.0	32.8	7.8	0	19	0	0
	5	24.6	33.4	6.9	0	0	0	0
	10	24.3	33.5	5.9	0	0	0	0
	15	24.1	33.6	5.3	-	-	-	-
	20	24.1	33.6	5.2	-	-	-	-
B 大島中央 (-/32.9m) 【09:20】	0	25.1	32.3	7.3	1	0	0	0
	★ 3	25.1	32.6	7.4	0	16	0	0
	5	25.2	33.3	7.3	0	4	0	0
	10	24.3	33.6	6.1	0	0	0	0
	15	24.0	33.7	5.3	-	-	-	-
	20	24.0	33.7	5.3	-	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.5m) 【09:29】	0	25.4	32.2	6.9	0	0	0	0
	5	25.0	33.6	7.2	0	0	0	0
	7	24.8	33.7	7.0	0	0	0	0
	★ 10	24.6	33.7	6.1	0	0	0	0
	15	24.1	33.6	5.6	-	-	-	-
	20	23.9	33.7	5.3	-	-	-	-
D 栄喜奥 (-/12.1m) 【09:45】	★ 0	25.3	22.1	8.5	0	0	2	0
	5	24.8	33.4	6.5	0	0	0	1
	6	24.5	33.5	6.1	1	0	0	0
	10	23.7	33.7	5.3	0	0	0	0

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	シャットネラ 属	クロロディニウム・ ポリクリコイデス	アレキサンドリウム 属	ディノフィシス 属
E ヒロウラ (-/25.2m) 【10:12】	0	24.6	20.0	7.6	0	0	0	0
	5	25.0	33.5	6.9	0	4	0	0
	★ 7	24.6	33.5	6.6	1	0	0	0
	10	24.2	33.5	6.1	0	0	0	0
	15	23.7	33.7	5.2	-	-	-	-
	20	23.2	33.9	5.2	-	-	-	-
F 青瀬山 (-/16.4m) 【09:54】	0	25.6	27.6	8.3	0	0	0	0
	5	24.8	33.3	7.0	0	0	0	0
	★ 6	24.5	33.5	6.2	0	0	0	0
	10	23.9	33.7	5.5	0	0	0	0
	15	23.4	33.9	5.3	-	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL : <https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。

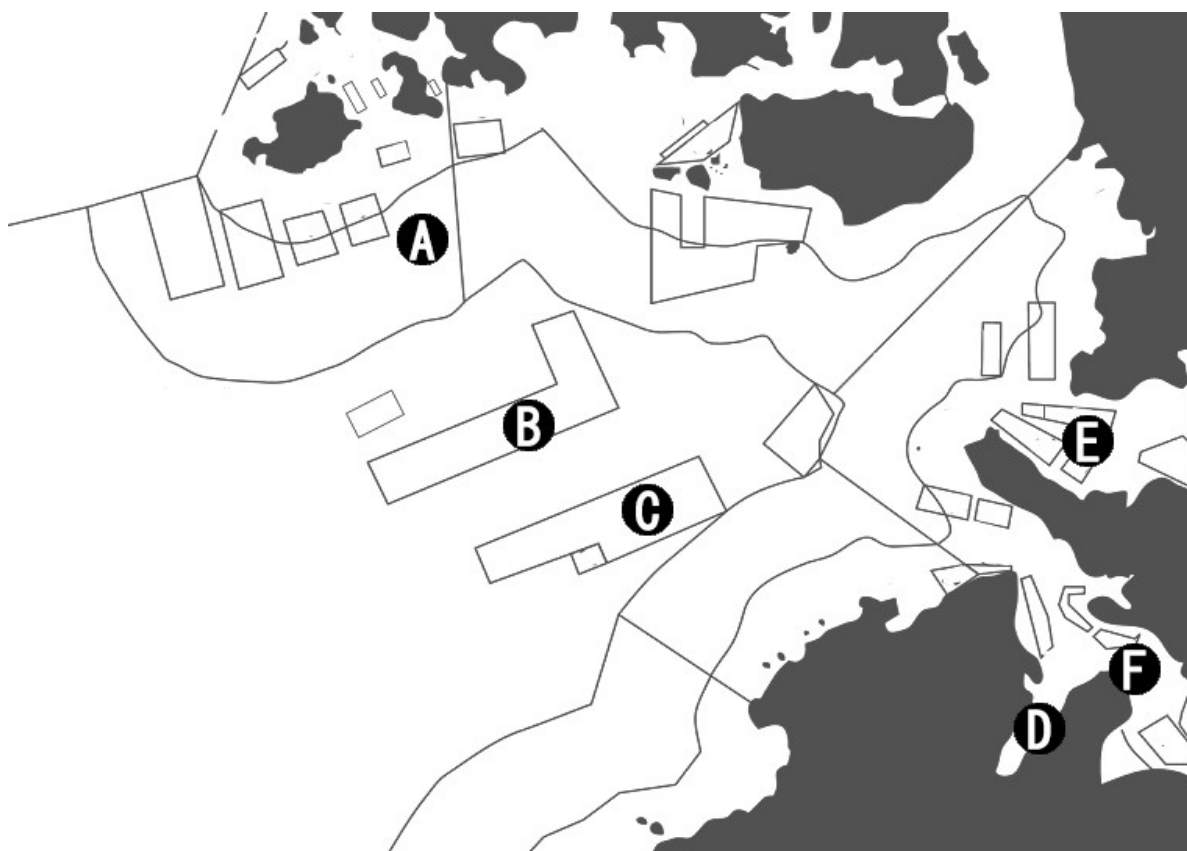
参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				宿毛湾
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—
クロロディニウム・ポリクリコイデス	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	5～6月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	3～5月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 藻津

B: 大島中央

C: 小筑紫中央

D: 栄喜奥

E: ヒロウラ

F: 青瀬山

シャットネラ属

最大細胞密度



コクロディニウム・ポリクリコイデス

最大細胞密度



アレキサンドリウム属

最大細胞密度



ディノフィシス属

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ

円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0
×1~9
●10
○100
○1,000
○10,000
○100,000
○300,000
○

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。

基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

